



# 米子市福市考古資料館通信

第4号

2022年3月



## 企画展「昔の匠の技」－石と鉄の道具－開催終わる

福市考古資料館では、原始・古代の石器と鉄器を展示し、昔の匠の技の素晴らしさを見ていただく企画展を開催しました。3月7日に終了しましたが、見逃した方もおられると思いますので、企画展の概要を通信で紹介いたします。

### 石器とは

石器とは、石を加工して作った道具です。人類のはじまりは、石の道具の製作使用によるとされます。

約330万年前、石を割って鋭利な道具に変えた人類は、割っただけの単純な石器から、次第に用途に沿って様々な石器生み出しました。

最初は握斧という単純な形の石器から、尖頭器、削器、彫刻刀、ナイフ形石器、細石刃など繊細な加工を必要とした石器を生み出しています。

日本では後期旧石器と呼ぶ時代の約4万年前の石器が最も古い石器です。

### 旧石器時代の石器

米子では約3～2万年前の石器が長者原台地の諏訪西山ノ後遺跡、尾高の泉中峰遺跡、小波の原畑遺跡で発見されています。これらの石器は、大山テフラという赤土の火山灰層の中から発見されます。ナイフ形石器と呼ばれる石器で、チャートや黒曜石等の硬い石で作られ、槍先やナイフとして使用されました。

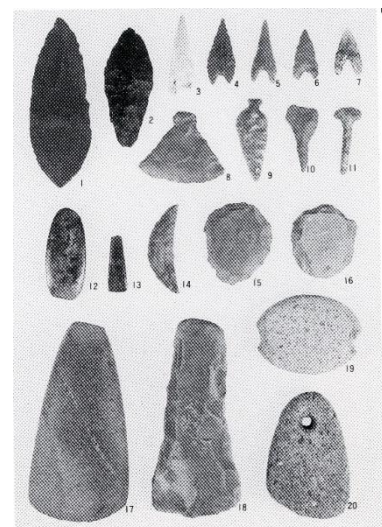
母岩を割って、剥片をとり先端を細かく加工して鋭利な刃物として巧みに加工しています。

### 縄文時代の石器

縄文時代には、石鏃や石槍など狩猟具、石斧や削器などの工具、敲石や磨石や石皿などの加工具など様々な用途によって各種の石器が生み出されました。また、隠岐島の黒曜石、糸魚川のヒスイなどのように用途に適した産地の限られた石材は、交易品として遠くまで運ばれています。



諏訪西山ノ後遺跡の石器



縄文時代の石器

### 狩猟の石器

縄文時代に鳥やシカやイノシシなどの中小の動物を獲るために先端に石鏃を装着した弓矢が生み出されました。

石鏃は、大きさも大小あり、茎子の無いもの、有るもの、異形のもの等様々で、装着方法や捕獲動物によって異なっていたのかもしれませんが。

石槍も有舌尖頭器と呼ばれる茎子の有るもの、槍先形と呼ばれる茎子の無いものがあります。

米子で出土した石鏃の石材は、隠岐島産の黒曜石が大半ですが、香川県金山産のサヌカイトもあります。



大陸系磨製石器

### 弥生時代の石器

弥生時代には、水稻耕作と共に新しい石器がもたらされました。これらは在来の石器と異なり大陸系磨製石器と呼ばれています。

農具として石庖丁・石鎌・工具として太型蛤刃石斧・抉入片刃石斧・扁平片刃石斧、武具として磨製石剣、磨製石鏃などです。その中で抉入片刃石斧、有柄式磨製石剣、柳葉形磨製石鏃は、朝鮮半島南部と日本にだけ分布しています。

### 石材の産地

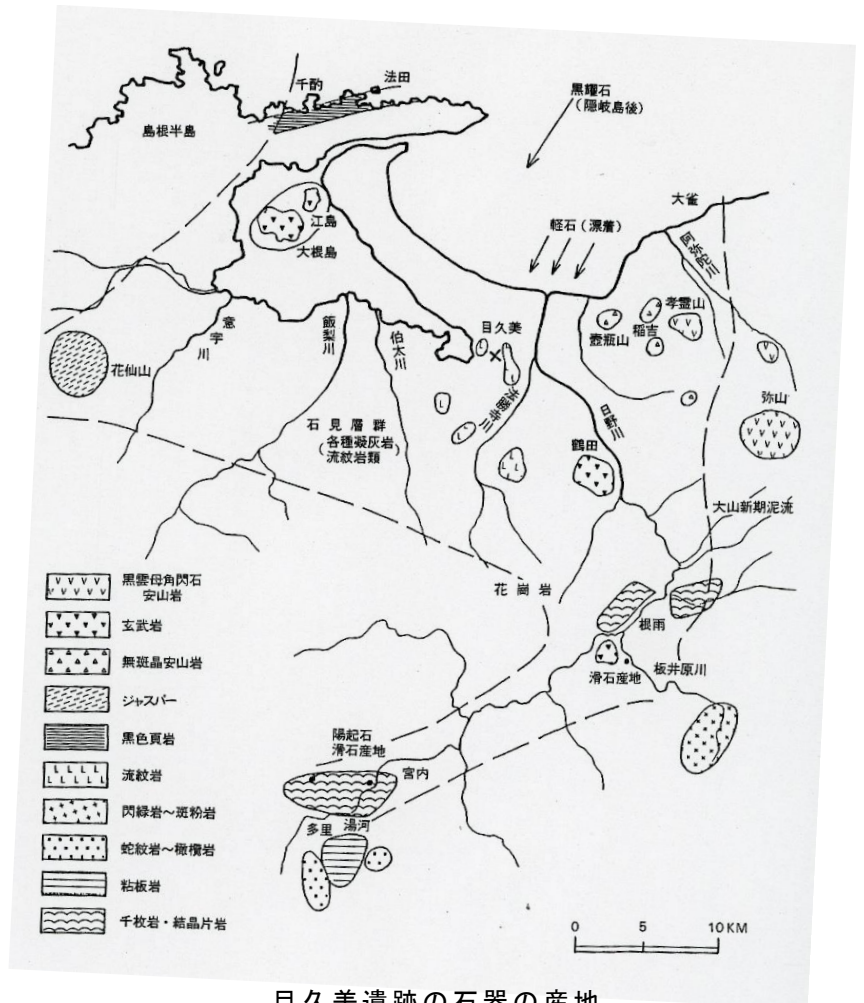
目久美遺跡から出土した石器類の産地を同定した山名巖氏は行動範囲を推察されています。

石器の使用目的にあった石質の石を選び、巧みに利用していると指摘されています。

石材原産地の範囲は、島根県松江市玉湯町から大山町、島根半島から日南町あたりまで広がります。

河川の転石や交易などによって入手していたと考えられます。

石は利器として広く利用されています。



目久美遺跡の石器の産地



## 玉作り

石の中でも、輝くようなきれいな石は、宝器や装飾品として縄文時代～奈良時代に様々な玉製品が製作されました。

縄文時代には翡翠の大珠、挾状耳飾り、弥生時代には緑色凝灰岩の管玉、古墳時代にはメノウや水晶の勾玉や管玉、切子玉等です。

硬い石を割り、擦り、穴をあけるなどの製作には特別な製作技法と時間をかけて作られています。



各種の玉製品

## 鉄器とは

鉄器は、鉄を加工して利用した道具です。石器と共に人類の発展に多大な貢献をしており、現代も鉄器時代と言えます。日本では、鉄の道具の出現は2400年前頃の弥生時代の初めにみられ、大陸や朝鮮半島から搬入した製品を使っていましたが、鉄素材や製品を鍛冶加工して鉄器も造っていました。

日本では1400年前の古墳時代後期になって、砂鉄を原料としてたたら製鉄をするようになりました。鉄を精錬し、鍛冶加工をして様々な鉄器が造られました。



青谷上寺地遺跡の舶来鉄器

## 弥生時代の鉄器

弥生時代には、金属器として、銅剣、銅矛、銅鐸などの青銅器がよく知られていますが、鉄器も弥生時代中頃から普及し、武具として鉄鏃、鉄剣、刀などがみられます。

また、農具として桎の木などで作った木製鍬や鋤の先に着ける刃先の鉄器があります。

石器に比べ、鉄の生産ができなかった日本では、石器とともに鉄器は、まだまだ貴重な道具でした。



青谷上寺地遺跡の鉄器

## 古墳時代の鉄器

古墳時代には、製鉄は古墳時代の終り頃の6世紀末にならないと開始されませんが、朝鮮半島から製品や鉄鋳という鉄素材がもたらされ、鍛冶加工して製品にしていました。鉄器が普及し、武具や農工具に盛んに用いられました。古墳時代の終り頃の6世紀末になると、国内でたたら製鉄炉で鉄生産が始まり、鉄器が普及しました。

工具、武器、武具、農耕具、漁具、馬具等様々な利器として広く利用されています。



古墳時代の鉄素材と鉄製品

### 鉄の武器・武具

古墳時代の武具は、これまでの時代に比べて種類や数量は著しく多くなり、武器としては、剣、刀、槍、鉄鏃、刀子、矛、武具としては甲冑、馬具などがみられます。

刀は反りの無いまっすぐな直刀で、金銅装の柄や鞘を持つものも多い。甲冑は短甲や甲挂、鉄鏃は定角形、柳葉形、鑿形、錐形などがあります。



古墳時代の直刀と剣

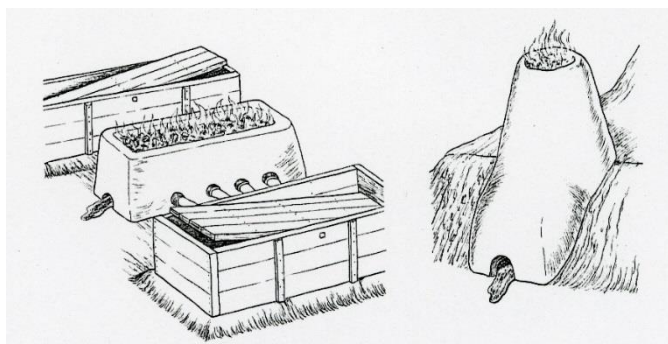
### 鉄の農工具

鉄器も石器と同様に用途によって様々なものが造られました。石よりも自在に加工できるため、道具としての石器に替わり多用されました。農具として鎌、鋤先、鍬先、工具として斧、槍鉋、鑿、刀子、釘などがあります。

### 製鉄と鍛冶

鉄鉱石や砂鉄を原料として製鉄が行われ、日本では6世紀末頃に始められました。それまでは鉄素材や製品を大陸や朝鮮半島から輸入していました。

山陰などの中国地方で盛んに砂鉄を材料とした「たたら製鉄」が行われ、生産された「銑鉄」を鍛冶炉で精錬して「鋼」にして、さらに鍛造鍛冶が行われて、工具や武具の製品が造られました。



横長型と縦型の製鉄炉



福長下モノ原遺跡の製鉄炉跡

### 福市考古資料館行事案内

企画展1「土器の文様」— 縄文土器 —  
縄文土器を中心に様々な文様を展示解説して、  
変遷と意味を紹介します。

開催日 令和4年6月1日～6月27日

観覧料 無料



縄文土器

発行者 米子市福市考古資料館（指定管理者 一財・米子市文化財団）  
住所 〒686-0011 米子市福市461-20番地  
電話・fax 0859-26-3784（同番号）  
休館日 火曜日・祝祭日の翌日・年末年始（12/29～1/3）